

金銭欲・物欲から脱却した人達の理想郷

——それはコミュニティー共同生活体と言う桃源郷だった。

井上達明建築事務所 正会員 ○井上 達明

1° 桃源郷

あれは二十数年前、筆者が六十歳台のこと、筆者は大阪市立中央図書館で金原義明著の「コミュニティー世界の共同生活体」という本に出会った。そして陶淵明(365-427)の「桃花源記」に出て来る桃源郷——武陵桃源——俗世間を離れた別天地・仙境を思い出した。日本では卑弥呼(日本語では「日の御子」であると筆者は考えている)は三世紀半ば頃の人(「魏志倭人伝」によれば約三十国が女王の統治下にあり、魏に使者を遣わして明帝より親魏倭王の称号を与えられた)ということで、陶淵明はこれより一世紀程後の人である。

2° 日々の暮らし

話を現代に戻そう。今から二十数年前、当時の筆者と同年齢位の女性のコミュニティー(共同生活体)での暮らしぶりが丁度テレビでも映されていた。この女性は恐らく浮世の^{しがらみ}柵そして心と物質と金銭を脱ぎ捨て、このコミュニティーに入ったのであろう。人が生きていくのには衣と食と住が必要である。まず食はコンビニとスーパーの中間のようなものの、**配給所**があってそこで必要な物を得る。**代金不要**——コミュニティーで金銭はどうなっているのでしょうか？ 次は衣、裸である人間は防寒・防暑、そして人としての体面の維持の為に必要である。これも衣類配給所で必要な衣類——下着から上着迄手に入れる。住いは **cottage** や山小屋的な物から我々の社会で供用する鉄筋コンクリート造の数階建て位の共同住宅もある。

3° 健康について

世界中の一般の人達は、飢餓に苦しむ人もある中、如何に食べ過ぎていることか？ 人の病気の全ては食べ過ぎが原因であり、「一日三食きちんと…」等と医師や製薬業等は口を揃えて学校で病院で人々にお説教をする。そして彼等は「薬の副作用」等と言い逃れに精を出しているが、副作用とは**毒作用**を隠蔽する言葉に過ぎないのだ。およそ毒作用の無い薬などあり得ないのである。昨今「オブジーゴ」などと言って驚異的に高価な抗癌剤の効果が喧伝されており、その高薬価で国の健康保険制度が**破綻**し、国家をも**亡ぼ**しかねない恐るべき勢いである。そもそも人々の癌の原因は前述のように、**食べ過ぎ**と**怠惰な生活**によって人々の生命力と抗癌免疫力が奪われ、癌が猛威を振るうからである。抗癌剤や手術によって余命5年等と言うが、十年二十年先はどうなるのか。コミュニティーの人々は**簡素な生活**により癌にも侵されないのである。

筆者の場合、エアコンを夜は真冬は摂氏23℃位、夏は省エネの為28℃位に設定し、十時間位十分な睡眠を取る。その際、四季を通して10W位の電気マット(30cm×30cm位)をバスタオルで巻いて(低温火傷しない為)足元と下腹を温めて、癌を防ぎ大腸の通じを良くする。

4° 老いについて

筆者は当年(2017年)秋10月18日には満87歳となり、昭和64年1月昭和天皇が崩御されたのも87歳で今の筆者と同じ年齢である。昭和天皇は崩御迄の2～3年間、癌の為か下血があり、新聞は自衛隊の若い隊員から何ccの輸血をお受けになったと日々報じていた。筆者は独居生活三十余年、子が四人ありながら死ぬに死ねない事情もあり、家事そして買い物、身の回りや貸駐車場9台分の管理そして毎月の駐車料金の入金チェック等、数々の事務をこなさねばならず、幸か不幸か病気になる暇が無い。さてこれが何歳迄続くものか、それが問題である。東京の聖路加国際病院のかの有名な老内科医 日野原重明(1911年10月4日生まれ、105歳)は名誉院長であるが、ビルの階段の6階位は駆け上るそうで、種々の啓蒙活動に精を出す以外に「はっばのフレディ」という劇の主演を務めたりもしている。

キーワード 理想郷、共同生活体、清貧の生き方、食べ過ぎ、医薬を当てにするな、自分自身を甘やかさない
連絡先 〒555-0011 大阪府大阪市西淀川区竹島3丁目7番4号 井上達明建築事務所 TEL 06-6478-1028

5° オーロヴィル Aurovill

以下は2005年2月4日に初版が発行された金原義明著「コミュニティー世界の共同生活体」に依っている。

世界に数多あるコミュニティーの中でも抜きん出ている。単に住人の多さや構成メンバーの人種の多様さ、占有する敷地の広さといった要素だけでなく、コミュニティーを支援する団体の巨大さと豊富さ、コミュニティーが掲げるヴィジョンの遠大さ等の様々な側面から見ても図抜けてスケールが大きい。その意味でオーロヴィルは「これもまたコミュニティーなのだ」と現代におけるコミュニティーの限界を示す存在だとも言える。

インド南部、タミール・ナドゥ州の州都チェンナイ(マドラス)から140km程南に下った所に、ベンガル湾に面したポンディチェリという町があり、そこから海沿いに12km程北上した所にこの巨大なコミュニティー「オーロヴィル」は存在する。これはヨガをする人の為のコミュニティーで、土地の広さは約2000エーカー。ただし現在のところ敷地はひとまとまりになっていなくて、あちこちにつぎはぎになって点在していて、コミュニティーの敷地が地域の村々と混ざり合っている感じである。全体が鬱蒼とした森に覆われていて、その中を赤土の道路が曲がりくねって走っている。元々ここは何もない赤土だけの土地だった所を、創立当時、初期のメンバー達が木を一本一本植えてここまでにしたのだという。そうやって先人が苦勞して大森林を育て、あちこちに集落ができてオーロヴィルが形作られてくると、以前は住む人のいなかったのに、近隣の住民たちも引越してきて村が出来た。何らかの形でオーロヴィルが落とすお金で、貧しいながら近隣の村々は食べている。このコミュニティーは、この地に一大生活圏を創出したのである。オーロヴィルはまだ開発中、発展途上のコミュニティーで、本当は森林地帯の中央に建設された黄金に輝く巨大な瞑想用パビリオン「マトリマンディ」を中心に、うずまき型にコミュニティーをデザインし、全体として直径約5kmの円形の敷地にすべく、円内に入る土地をすべて買収していく計画らしいが、資金不足の為に土地買収に手間取り、オーロヴィルの存在が未買収の土地の地価を上昇させる結果となり、自分で自分の首を絞めているような具合になってきたらしい。

オーロヴィルの創設は1968年、マザーことミラ・アルファサの提唱により、様々な団体からの援助を受けて設立された。オーロヴィルは基本的にはヨガ、瞑想、そして精神的成長を目指すコミュニティーである。また、世界の人々が宗教、国家、文化の壁を越えてともに手をつなぎ、調和して生活する世界都市であることを目指している。それから更に、彼らは以下のようなマザーの展望をコミュニティーの理念として掲げている。即ち、人類は地球上生物の最後の段階でなく、進化の過渡期の生物であって、いずれこの地球を次の「種」に譲る運命にある。**次の種は、新しい人類なのかもしれず、人類とは別の生物なのかかもしれない。**しかし、人類の世の後に来るのは、精神を超えた意識をもった種であり、その新しい種の出現のために環境を整える場所、それがオーロヴィルだというのである。コミュニティーは全体としての**平等**を目指しているようだが、コミュニティー

から給与、生活費を貰っている者もいれば、自分の食い扶持を自分で稼いでいる者、或いはコミュニティー内で自分で事業を興し、従業員に賃金を支払いながら利益をコミュニティーへ寄付している者もいて、少なくとも経済面では住人の待遇はまちまちで平等でない。また、オーロヴィル内の各地に点在する集落の一つ一つが各々コミュニティーに形成していて、それぞれの集落ごとに、財布を一緒にする**原始共産主義的な実験**をしたり、共同で仕事をしたり食事をしたりしていて、あたかもオーロヴィルは、それぞれがスタイルの異なったたくさんの小コミュニティーが集まった、コミュニティーのキャンプ村といった様相を呈していた。



オーロヴィルの中心にある黄金のパビリオン「マトリマンディ」内部の瞑想室の中央には直径70cmの水晶玉が置かれている。